

国語問題

(2月24日実施)

□ 次の文章を読んで後の問いに答えよ。

「完全な翻訳の不可能性」を論じようと思つたら、例はいくらでも作れます。「Madam, I'm adam.」というアダムがイブに言った人類初の自己紹介の言葉は、^aカインだからこそ面白いのであって、「マダム、僕がアダムだ」と訳しても「それがどうした」ということになってしまします。「影に酔いしれ、牛、嬉しい夜逃げか」だつて、どんなに立派な英訳に仕立て上げたところで、完全な翻訳にはなりません。

^bA 我々は、翻訳の限界というものの ^bB をクワダてることもできるでしょうし、さらには言語一般、またはコミュニケーションというものが ^cC に抱えている限界にまで話を発展させることもできるでしょう。あるいは、ゆえに異文化をよく理解する国際人たらしとする者は日々外国語の勉強に励み書物はすべからく原書で読むべし、と一個の ^dD にまとめてもいいかもしれません。あるいはまた、さらに話をむつかしくして、そもそも原文というものにしても、言語化される以前の「世界」なり「想い」なりを言語に「翻訳」したものにほかならないのであって、いかなる文章も完全な「原文」ではありえないのではないか、という、本格的な翻訳論ではかならずお目にかかる議論の方向に話を持っていくことも可能でしょう。

^eE、翻訳の「現場」で作業をする者にとっては、翻訳で百パーセントを伝えるのが、不可能であることよりも、ひよつとすると九十九パーセントなら可能かもしれないことのほうがはるかに大事であり、翻訳において原文の九十パーセントなり八十パーセントなりが伝わってしまうことのほうがずっと大きな ^fF なのです。すぐれた村上春樹論「伝達という出来事」で、井口時男は次のように書いています。「人間と人間をつなぎとめる濃密な関係の網がずたずたに切断され、まるで抽象的で孤立した単位のようなものとして個人が放り出されてしまったと言われる現代において、おそらく、私たちが真に驚くべきは、人間同士の心の伝達の困難さについてはない。私たちの日々の経験によれば、事態は全く逆なのである。どんなに過大な自己幻想を抱いた孤独な生存も、いやおうなく他者との関係に入り込んでしまうのであり、そこでは意図すると否とにかかわらず、負い目を負ったり負けさせられたりしているのである。だから、言葉が通じない、とすべきではない。それでも言葉は通じてしまう、とこそ言うべきなのだ。」実はこれは、意図しないにもかかわらず伝達されてしまう言葉の不気味さを語ったものであって、ここで言っているような翻訳の伝達達成度とは少し、^cというか相当、話が違いますが、伝わらないことではなく伝わることにこそ驚くべきだ、という視点をとてもユウベンに語っている一節なのであります。(①)

^gG 西洋史を見れば、八十パーセントなり九十パーセントなりの、そこそこの翻訳が文化を動かしてきたと言つて過言ではありません。中世のヨーロッパは、ギリシャの数学や医学や天文学を、そのアラビア語訳のその

またラテン語訳を通して学びました。(②)ルネッサンスとは人間復興の時代だったと言われますが、それは要するに一大翻訳ブームのことでもあったのです。カッパン印刷が普及し、ギリシャ・ラテンの古典語を読める人だけが「読者」である時代が終わると、フランス語などの「通俗語」への翻訳の [H] が爆発的に高まったのです。

むろん、だからと言って、歴史における翻訳なり翻訳家なりが果たしてきた役割が、フトウに過小評価されてきたことを嘆こうというわけではありません。(③)けれども、この翻訳という、不完全であるほかないものが、ともかくにも、膨大な文化的ルイセキの土合となってきたという事実には、少しは驚いてもいいのではないのでしょうか。

現場に立つ翻訳者は、以上述べてきたようなことを頭の片隅に置きつつ、 [I] 直面する問題にその場かぎりの解決策を見つけていく作業をくり返すしかありません。辻由美の『翻訳史のプロムナード』に作家であるとともに翻訳の仕事も多かったマルグリット・ユルスナールの翻訳観を要約した一節があります。「翻訳、とくに詩の翻訳というものは、旅行にもつていくものをスーツケースにつめるようなものだ、とユルスナールは語る。あつるものをつめ、いやいやこちらのほうが大切だと思いなおして、またつめかえる。そんな操作をくり返して、ほんとうに旅に必要なものだけを選びぬくのだ。だから、翻訳では表現できないものはかならずある」訳文のスイ [K] を重ねる作業を、単純メイカイな [J] で言い表わした一節と言ってよいでしょう。 [L] 「ほんとうに旅に必要なもの」が何なのかを決める客観的基準など、どこにもありはしません。ヨウはその作品が翻訳者の耳にどのように「聞こえて」いるかが、その作品の「本質」を左右することになります。

【「翻訳―作品の声を聞く―」柴田元幸】

問一 傍線 a～i のカタカナにふさわしい漢字をそれぞれ選び、番号で答えよ。(解答番号は [1] ～ [9])

a [1]	カイブン	1	怪聞	2	回分	3	灰分	4	回文	5	怪文
b [2]	クワダてる	1	乗	2	桑	3	委	4	加	5	企
c [3]	ユウベン	1	友弁	2	勇弁	3	優弁	4	夕弁	5	雄弁
d [4]	カッパン	1	活版	2	喝版	3	割版	4	滑版	5	甲版
e [5]	フトウ	1	府当	2	不当	3	負当	4	富当	5	附当
f [6]	ルイセキ	1	累積	2	類積	3	墨積	4	累関	5	累隻
g [7]	スイコウ	1	遂行	2	粹工	3	推敲	4	遂敲	5	推項
h [8]	メイカイ	1	明快	2	名解	3	明改	4	名快	5	命快
i [9]	ヨウ	1	用	2	様	3	要	4	容	5	易

問二 空欄A・E・G・I・Kに入る適切な語を次より選び、番号で答えよ。(解答番号は【10】～【14】)

- | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|-------|---|------|
| 1 | たとえば | 2 | そのつど | 3 | 同じような | 4 | 加えて |
| 5 | あるいは | 6 | もちろん | 7 | ここから | 8 | けれども |

問三 空欄B・C・D・F・H・Jに入る適切な語を次より選び、番号で答えよ。(解答番号は【15】～【20】)

- | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|----|---|----|
| 1 | 本質的 | 2 | 悲観的 | 3 | 教訓 | 4 | 需要 |
| 5 | 理論化 | 6 | 客観的 | 7 | 驚き | 8 | 比喩 |

問四 文中に左の文が入る場所がある。入る場所は、文中の①～③のいずれかの場所である。該当する場所を選び、番号で答えよ。(解答番号は【21】)

結局のところ翻訳とは、自己消去によって自己実現を達成する作業ですから、それは本質的に「裏方」の仕事であり、華やかに全面に出る方がむしろ異例といえるでしょう。

問五 この文章の内容に適したものを次より一つ選び、番号で答えよ。(解答番号は【22】)

- 1 世界は完全な翻訳のおかげで、急進的な発展を遂げた。
- 2 翻訳者は主役として、原文をより伝わりやすく誇張していくべきである。
- 3 翻訳者は作者の意図するところのすべてを表現することはできない。
- 4 英語から日本語訳にするよりも、日本語から英語訳にすることの方が難しい。

問六 次の言葉の意味として適切なものを語群より選び番号で答えよ。

(解答番号は、【23】～【27】)

- | | | |
|---|------|--------|
| A | 【23】 | 表象 |
| B | 【24】 | ポストモダン |
| C | 【25】 | 形而下 |
| D | 【26】 | ストイック |
| E | 【27】 | ダイナミズム |

- | | | | | | | | |
|---|--------|---|------|---|--------|---|-----|
| 1 | 力強さや迫力 | 2 | イメージ | 3 | 形のあるもの | 4 | 政権下 |
| 5 | 脱近代 | 6 | 近代化 | 7 | 運動 | 8 | 禁欲的 |

問七 次の漢字の読みについて正しいものを選び、番号で答えよ。(解答番号は【28】～【33】)

- | | | | | | | | | | | | |
|---|--------|---|------|---|-----|---|-----|---|-----|---|------|
| A | 言質【28】 | 1 | ことだま | 2 | げんち | 3 | げんじ | 4 | ことし | 5 | ごし |
| B | 陶冶【29】 | 1 | とうすい | 2 | とうじ | 3 | とうち | 4 | とうお | 5 | とうや |
| C | 頒布【30】 | 1 | はんぷ | 2 | ほふ | 3 | ほこ | 4 | ほご | 5 | はんぷ |
| D | 由緒【31】 | 1 | ゆえん | 2 | ゆいし | 3 | はなお | 4 | ゆうし | 5 | ゆいしよ |
| E | 礼賛【32】 | 1 | れいさ | 2 | らさ | 3 | れさ | 4 | れいぎ | 5 | らいさん |
| F | 固唾【33】 | 1 | かた | 2 | こじ | 3 | かず | 4 | かたづ | 5 | かたず |

四 次の作家の作品名と、関係のある語を語群より選び、番号で答えよ。

(解答番号は、【34】〜【43】)

- | | | | |
|---|-------|---------|------------|
| A | 森鷗外 | 作品名【34】 | 関係のある語【35】 |
| B | 小杉天外 | 作品名【36】 | 関係のある語【37】 |
| C | 幸田露伴 | 作品名【38】 | 関係のある語【39】 |
| D | 小林多喜二 | 作品名【40】 | 関係のある語【41】 |
| E | 田村泰次郎 | 作品名【42】 | 関係のある語【43】 |

【作品名】

- | | | | | | | | |
|---|------|---|-----|---|----|---|------|
| 1 | 蟹工船 | 2 | 高瀬舟 | 3 | 新生 | 4 | はやり唄 |
| 5 | 肉体の門 | 6 | 日輪 | 7 | 戦旗 | 8 | 五重塔 |

【関係のある語】

- | | | | | | | | |
|---|------|---|----------|---|-------|---|------|
| 1 | 明六社 | 2 | 擬古典主義 | 3 | 戯作文学 | 4 | 自然主義 |
| 5 | 翻訳小説 | 6 | プロレタリア文学 | 7 | 反自然主義 | 8 | 風俗小説 |

五 次の意味にあてはまる言葉を語群より選び、番号で答えよ。

(解答番号は、【44】〜【49】)

- | | | |
|---|------|---------------------|
| A | 【44】 | 追い詰められた弱者が強者に反撃すること |
| B | 【45】 | 儉約すること |
| C | 【46】 | 一生懸命探すこと |
| D | 【47】 | 役に立たないこと |
| E | 【48】 | 仲間によって良くも悪くもなる |
| F | 【49】 | すらすら話すこと |

- | | | | | | | | |
|---|-------------|---|--------|---|-------------|---|---|
| 1 | 十日の菊、六日のあやめ | 2 | 立て板に油 | 3 | 爪に火をともし | 4 | 窮 <small>きゆう</small> 鼠猫 <small>ねこ</small> をかむ |
| 5 | 立て板に水 | 6 | 鵜の目鷹の目 | 7 | 朱に交われれば赤くなる | 8 | 紺屋 <small>こんや</small> の白袴 |

六 次の意味に当てはまる四字熟語を語群より選び、番号で答えよ。

(解答番号は、【50】〜【55】)

- | | | |
|---|------|------------------|
| A | 【50】 | ひどく怒ること |
| B | 【51】 | あらゆる物は常に変化していくこと |
| C | 【52】 | 心にやましいことがないこと |
| D | 【53】 | 実力以上に大きなことを言うこと |

E 【54】 心配ごとがあること

F 【55】 いろいろな事をよく覚えていること

5 1 内憂外患
朝令暮改

6 2 青天白日
博覧強記

7 3 大言壮語
諸行無常

8 4 切齒扼腕
白砂青松